

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 7 月 21 日 (2005.7.21)

【公開番号】特開 2003-49154 (P2003-49154A)

【公開日】平成 15 年 2 月 21 日 (2003.2.21)

【出願番号】特願 2001-239014 (P2001-239014)

【国際特許分類第 7 版】

C 0 9 K 3/00

【F I】

C 0 9 K 3/00 1 0 3 M

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 12 月 7 日 (2004.12.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

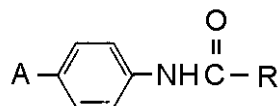
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記化学式



(式中、A は糖の残基を表し、R はアルキル基を表す。) で表されるハイドロゲル化剤。

【請求項 2】

前記 A が、アルドピラノースの 6 員環に結合するいずれかーの水酸基の水素を除いた残基を表す請求項 1 に記載のハイドロゲル化剤。

【請求項 3】

前記アルドピラノースがグルコピラノース又はガラクトピラノースである請求項 2 に記載のハイドロゲル化剤。

【請求項 4】

前記 R が炭素数が 6 ~ 20 の直鎖アルキル基である請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のハイドロゲル化剤。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載のハイドロゲル化剤を、1 - ブタノール、t - ブタノール、テトラヒドロフラン、クロロホルム、ジクロロメタン、n - ヘキサン、酢酸エチル、ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホキシド及び水 (微量のメタノールとエタノールを含んでもよい。) から成る群から選択される溶媒と混合し、この混合物を固形分が溶解するまで加熱し、冷却することから成るゲル化方法。

【請求項 6】

前記ハイドロゲル化剤と前記溶媒とを、ハイドロゲル化剤の濃度が 0 . 1 ~ 3 . 0 重量 % となるように混合する請求項 5 に記載のゲル化方法。